

100%自然派ねりしっくい

SELF-re セルフル

Natural plaster SELF-re

施工マニュアル



ビニールクロスからのしっくい仕上げ 編

～ 施工前に準備するもの ～

ゴム手袋・保護メガネ・保護マスク

漆喰の主原料である消石灰は強アルカリ性なので、水練り状態のしっくいが直接皮膚に触れると肌が荒れることがあります。(固まった後は触れても大丈夫です)

左官コテ・コテ板

下塗り材や漆喰を塗る際に使用します。



柄杓(ひしゃく)・お玉

下塗り材や漆喰をコテ板に載せる際に使用します。



マスキング・マスキータープ

漆喰が付着しないように柱や枠、床面など漆喰に接する部分の養生として使用します。



ジョイントテープ

ビニールクロスの継ぎ目(ジョイント)に貼り、浮きや剥がれを防ぎます。



刷毛(ハケ) 大・小

漆喰を塗った後、柱や枠と接する部分(チリ際)を整える時などに使用します。



その他

バケツ・ブルーシート・脚立・カッター
雑巾・掃除道具など

※上記のものはホームセンターでご購入頂けます。
上記の道具以外にも、適宜必要なものをご準備下さい。

ビニールクロスからのしっくい仕上げ 編

1. 下地の清掃・養生

最初に、ホウキで壁や天井のホコリを取り、漆喰を塗る面を綺麗な状態にします。

1-1

ビニールクロスの上に施工していく場合、ビニールクロスがしっかり下地に付いていない部分はカッターで切り取り、壁から剥がれている箇所をなくします。

※下の注意書きをお読み頂き、状況に応じてクロスを剥がすこともご検討ください。



ビニールクロスの補修



汚れを拭きとります

※ビニールクロスは出来るだけ全て剥がし、裏紙も全て剥がす事をお薦めしていますが、裏紙まできれいに剥がす事は大変な作業なので、しっかりと下地に接着し汚れ等もあまりない状態であれば、そのまま施工します。古いビニールクロスの場合、汚れの影響で漆喰表面にアクが出てくる事がありますので、アクが懸念される場合は市販のアク止め材（株）ハネダ化学 ハイポリックシーラーなど）を全面に塗布して下さい。

＜注意事項＞ アク止め材は合成樹脂が配合されていますので、シックハウス症候群や化学物質過敏症の方は使用しないでください。化学物質対策としてご検討の際は必ず対処方法、注意点などを弊社までお問合せ頂けますようお願い致します。

1-2

柱や窓枠などの壁と接する部分（ちり隙）に、漆喰が付かないよう下地から2～3mm程空けてマスキングテープを貼ります。（下塗り材+漆喰の塗り厚が2.5mm程度の為）漆喰が木部に触れると変色する恐れがある為、それを防ぐ目的もあります。



マスキングとマスキングテープ



マスキングテープを貼ります

漆喰等が付着して汚れないように、床部分やエアコン等にはビニール付きのマスキングテープを使用し全体をカバーします。照明、コンセントカバー、カーテンレールなど、外せるものは外してから養生してください。



床にも漆喰が落ちます



エアコンも養生でカバー

1-3

ビニールクロスの浮き・剥がれを防ぐ為に、ジョイント（継ぎ目）部分にジョイントテープを貼ります。タッカー（建築用のホチキス、壁などに直接打ち付ける事ができる）でジョイント部分やビニールクロスの端部分を止めるとより耐久性がアップします。



のり付きのジョイントテープ



ジョイントテープとタッカーの処理

2. 下塗り（自然派下塗り材）

セルフ専用の「自然派下塗り材」を塗ります。上塗りの漆喰「セルフ」の接着力を高め適度な硬化を促進し、漆喰の仕上がりを良くする役割があります。ケースからポリ袋入りの下塗り材を取り出し、ポリ袋ごと少しほぐしてからバケツなどの容器に入れてご使用ください。塗る時の感触が硬い時は少量（60 cc程度）の水を入れて表面からほぐして柔らかくすると塗りやすくなります。



18kg入りは9kgポリ袋入り×2袋
ミニは9kgポリ袋入り×1袋



ポリ袋ごとほぐして
容器に入れてください

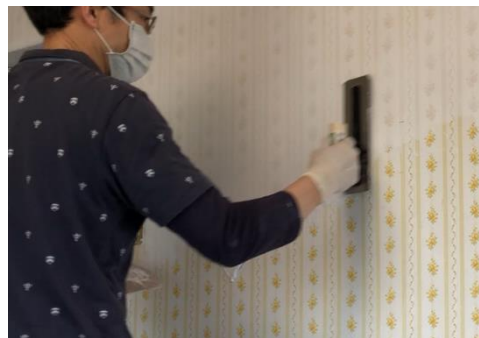


硬い時は少量の水を入れて
ほぐします

自然派下塗り材は、薄くこすりつけるように0.5mm以下で塗っていきます。下塗り材に入っている大理石粉(寒水石)のザラザラ感を感じるぐらいの薄さで塗り付けます。コテの片側を立て気味にして、厚みは0.5mm以下を厳守し、できるだけ薄く塗り伸ばしてください。厚塗りをするとうセルフルを塗る時に漆喰の水が下塗りに吸われて塗りにくくなる場合があります。



100%自然素材で安心です



薄く伸ばすように塗っていきます

3. セルフルの仕上げ塗り

ケースからポリ袋入りのセルフルを取り出し、ポリ袋ごと充分ほぐして全体を均一の柔らかさにしてからバケツなどの容器に入れてご使用ください。ポリ袋をほぐす際は袋が破れないようにご注意ください。電動のカクハン機を使ってしっかり練ると柔らかくなり過ぎますので、軽く混ぜる程度で調整してください。



扱いやすい小分けタイプ

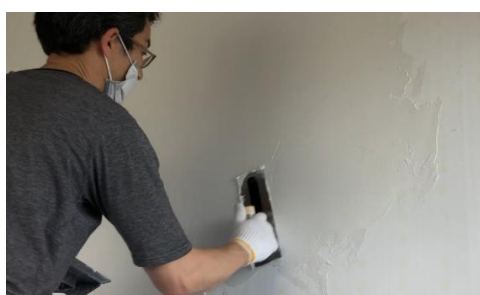


全体を充分ほぐして



準備OK

自然派下塗り材を塗り、1~2時間程度時間をあけ表面が少し乾いてから「自然派ねりしっくいセルフル」の仕上げ塗りを行います。自然派下塗り材を塗った後12時間以上経過すると下塗りの表面にねりしっくいの水が吸われて塗りにくいことがあるので、その場合は下塗り面に霧吹きやローラーで水を少し含ませると塗りやすくなります。





慣れると楽しくなります

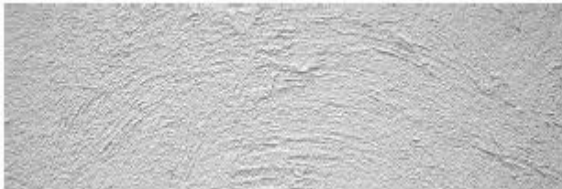


自分だけのシックい壁をつくらう！

セルフ塗り 1回目は下塗り面にコテでこすり付けるように約1mmの厚みで薄く塗りつけてください。その際、下塗り面と仕上げ塗りの間に空気が入ることがあるので、空気を抜くようにコテ圧を強めて塗ってください。手の届く範囲で1回目が塗り終わったら、すぐに2回目を約1mm厚で塗り、全厚約2mmで仕上げになります。**セルフ塗りの1回目と2回目は時間をあけず続けて塗って仕上げてください。壁一面の途中では止めず、できるだけ面ごと、部屋ごとに仕上げていくようにしてください。**

仕上げのテクスチャー（ラフ、フラットなど）は2回目の約1mm塗りの時にコテ跡をつけるなどの仕上げ塗りを行ってください。

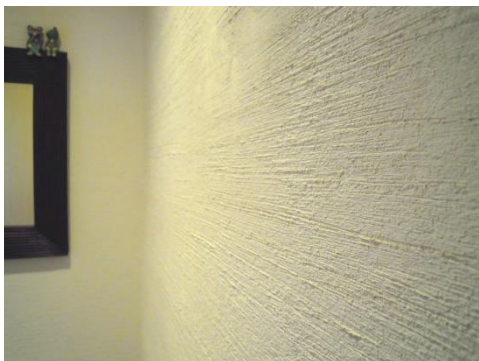
テクスチャー例



ラフ仕上げ



引きずり仕上げ



刷毛引き仕上げ



ご家族の手型も記念に

厚く塗る場合は全厚3mmまでを目安とし、それを超える厚塗りはひび割れやはがれの原因になりますのでご遠慮ください。

4. 最終仕上げから完成へ

セルフの仕上げ塗り後、乾いてしまう前（約1時間前後）にマスキングテープ、養生テープなどを剥がし、少し濡らした細めの刷毛を使いちり際と漆喰の境目をゆっくり沿わせて端部をきれいに整えます。



乾く前に剥がします



最後の仕上げは丁寧に

しっくい壁の完成！

しっくい施工後は湿気がこもらないように適切な換気が大切ですが、しっくい表面の急激な乾燥は、ひび割れ等が起きやすくなりますので、直射日光の当たる場所は日差しを遮り、風がよく通る場所は窓やドアを開けすぎないように調整し、漆喰壁の急激な乾燥を抑えてください。



D I Yの施工例



※しっくい施工後は、湿気がこもらないよう数日はこまめに換気をして空気を入れ替えてください。

5. 道具の清掃・後片付け

使用したコテやコテ板、バケツなど、漆喰が付着した道具の清掃は、まず道具に付いた漆喰や下塗り材をヘラやゴム手袋を着用した手で除去してください。ご家庭の排水溝に漆喰をそのまま流すと詰まりの原因になることがありますので、多く付着した漆喰などは先に除去してから水洗いをして頂くようお願いいたします。

漆喰や下塗り材は固まると取れにくいので、道具類の清掃はなるべく早く行ってください。道具をきれいに使うポイントは、コテやコテ板などに漆喰の付着が多くなったら、休憩前や作業途中でバケツに張った水を使い、ブラシなどでこまめに洗い落すことが大切です



多く付いた漆喰は取ってから水洗いを



こまめな水洗いが大切です

※ねりしっくいセルフ、自然派下塗り材が余って残った場合

施工後に余った材料は、ポリ袋などに入れ空気に触れない状態にしておけば1か月程度を目安に保管し使用することができます。

余った本品を廃棄処分する場合は、お住いの地方自治体の基準に従い廃棄処分をしてください。都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合は、そこに委託して処理をすることもできます。

施工や取扱い方法など、ご不明な点などはお気軽にお問合せください
お問合せ先 高知石灰工業株式会社 TEL : 088-865-0014 FAX : 088-865-0016

ウェブサイトからもお問合せいただけます。

問合せフォームはこちら →

